NPO法人
原発ゼロ市民共同 かわさき発電所 ニュースレター

第70号

でん太通信

den ta tu～sin

●発行　2023.02.28. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者　川岸卓哉

■12/17「再エネ学習会＆みかん狩り in小田原」を開催

田中 哲男（副理事長）

数日前から天気予報に雨マークがちらついていた１２月１７日（土）、早朝から子連れの父親４人を含めた２１人が集まりました。参加者の年齢構成は１０歳未満が最大数となり、５人の学生も加わった１３人が就労前の未来ある世代です。

一行が向かった先は、合同会社**「小田原かなごてファーム」**です。見学の１ヵ所目は日本で唯一、水田で行われている**ソーラーシェアリング**です。試行錯誤の積み重ねが随所に見える発電所の前で、小山田大和さんから説明をお聞きし、予定していた以上に積極的な質問が重なりました。一方、子ども達は収穫後の田んぼで、のびのびと遊び、無農薬・無肥料で育った稲穂の残りからお米を出して味わう姿もありました。

次に向かった松田町健康福祉センター「健楽の湯」の**木質バイオマス**ボイラー設備は、海外に依存している化石燃料から、国内で不要になった廃材や間伐材などを有効利用する取り組みです。エネルギー資源を国内で賄うので海外にお金が流失しなくなります。木材を使うので二酸化炭素の排出量を削減できます。国内での雇用が生まれます。良い事づくめの取り組みですが、新事業スタートの苦労は想像以上でした。まず、町に再エネ条例を制定し、施設の設備改修に合わせ町の予算を計上させる周到な計画から始まります。一部大企業のように自分たちだけの利益を追求するのではなく、市民の生活と環境、かつ経済性も担保して持続可能な労働とエネルギーを実現させる社会への確かな一歩がそこにありました。一方の子ども達は同じ敷地の公園で大はしゃぎ、楽しそうに

遊ぶ子ども達の笑い声をBGMに予定時間をオーバーする、小山田さんからの熱い説明が続きました。
　午後は無農薬のみかん畑に移動し、ソーラーシェアリングの水田で収穫したお米を使ったお弁当を堪能しました。子ども達は**みかん狩り**よりも、山羊との遊びに熱中していました。
　帰りの車内では、感想交流後に子ども達の合唱会となり、遠足のような賑やかな企画になりました。再生可能エネルギーと農業、市民活動それぞれの持続可能性のヒントを得たような貴重な一日でした。

「再エネ学習会＆みかん狩り」に参加したご感想をいただきました♪

専修大学　**金城　真瑚**

　かねてより再生可能エネルギーの可能性に関心があり、今回の学習企画に参加させていただきました。私自身はこれまで、昨今話題の気候変動という環境問題の点から、その改善策としての再エネに興味を持っていました。しかし講師の小山田さんの「地域のために」という考え方や設立までの経験談を伺い、地域の課題解決手段としての再エネの可能性まで視野が広がりました。再エネはそれ自体が目的ではなく、耕作放棄地の利用や地域資源の活用のための道具であるという考えは、今まで欠けていた視点であり、目からウロコでした。
　地域にある資源を活用し、地域の人が生産・消費する地産地消のモデルは、もはや全国に浸透しています。しかし現状を改善したいと思っていても、いざ行動に移せる人はほんのひと握りです。小山田さんの身をもった経験を教えていただき、私たち一人一人が地域の未来を生きる当事者として、何を使うべきか考えていかなければならないと実感しました。

■4月15・16日「原発事故＆再エネ学習会 in フクシマ」

福島学習会2023の企画メンバー　**伊礼　悠花**（大学３年生）

　3.11から12年が経ちます。私たちはあの日の教訓を活かせているでしょうか？
昨年末の閣議決定では、大軍拡だけでなく、原発の新増設・運転期間を延長していく方針が定まりました。あれほどの大災害を経験してもなお、日本は原発に固執する。地震の度に、私たちはいつまで原発に怯えて暮らさなければならないのでしょうか？
　こういった現状の中で、福島原発事故はなんだったのか、１２年目の福島が抱える課題について体感できるような学習会を開催します。
　放射能汚染水の海洋放出問題（今）。福島原発事故の東電側の見解（過去）。原発に頼らない再エネの可能性（未来）。この３つの軸に沿って、２日間に渡って密度の濃い時間を過ごしていただけたらと思います。

中島　孝さん

　処理水の海洋放出になぜ反対するのか。**１日目**は、**松川浦「相馬漁港」**にて、**福島原発訴訟の原告団長の中島孝さん**から、福島で生き続けることを選んだ人だからこそ語れる言葉をお聞きします。その後、**「東京電力廃炉資料館」**に移動し、東電職員の案内の元、原発事故の反省と教訓をもう一度振り返ります。宿**「農家民宿　いちばん星」**に移った後は、みなさんが１日を通して感じたことを共有し、参加者同士が交流を深められるような場もご用意できたらと思います。
　２日目は、放射能汚染の影響により村全域が計画的避難区域に指定された**「飯館村」**に向かいます。

自らの手で地域を次世代に渡すため、村内の資源を最大限活用し、再生可能エネルギー事業を中心として村の復興を手掛ける**「飯館電力㈱」の千葉訓道さんから、**太陽光発電所を見学しながらお話を伺います。午後は**「あぶくま洞」**の鍾乳洞を観光する予定です。

若い世代も交えて 3.11 を振り返り、次世代に残していきたい社会についてみんなで考えてみる。そんなワクワクするような学習会に参加してみませんか？　　※発電所収益からの還元企画

●日　時:　2023 年 4 月 15 日（土）～16 日（日）　マイクロバスで川崎駅を朝 7 時出発予定
●参加費:　30 歳未満 14,000 円、30 歳以上 18,000 円（会員は 16,000 円）
交通費（マイクロバス）、宿泊代、４食、入館料などを含む。
●申込〆切:　３月 31 日（金）　●お申し込みは QR コードからお願いします ➡
●定員: 20 人　facebook 等で募集　●問合せ: 090-5764-6826（担当　加藤）

■3/12「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」集会を開催

原発ゼロへのカウントダウン事務局長　**鴨下 元**（当 NPO 法人理事）

今年は３月１２日（日）に「中原平和公園」で屋外での集会とデモを４年ぶりに開催します。私たちは福島原発事故が起きた翌年の２０１２年３月から毎年３月に、福島原発事故をテーマにした１０００名規模の集会を開催してきましたが、感染防止を優先して２０２０年から３回続けて対面での集会を断念してきました。今年は、政府からイベント自粛要請がない限り、屋外での集会とデモを必ず実施します。

岸田政権は、安倍政権・菅政権でもおこなわなかった原発の新増設や、福島原発の放射性物質を含む汚染水の海洋放出などを強行しようとしています。私たちが、国の原発政策に無関心になり、再稼働や新増設、運転延長がすすめば、次の原発事故へとつながります。これをとめることができるのは、私たち１人ひとりの声と行動です。ぜひ、２０２３年３月１２日（日）に中原平和公園で開催する「第１２回　原発ゼロへのカウントダウン in かわさき　集会＆デモ」にご参加ください。

福島原発事故発生時に福島県内に住んでいた、当時６～１６歳の男女６人が、原発事故による被曝によって甲状腺がんになり、甲状腺の摘出や、生涯にわたるホルモン治療などを余儀なくされたとして、東京電力に賠償を求める「311 子ども甲状腺がん裁判」がはじまっています。第１２回集会では、この裁判の弁護団の１人である北村賢二郎弁護士にお話をしていただきます。

また、経済学者としてラジオ・テレビなどでもおなじみの金子勝さんも集会でお話をされます。

集会とデモの詳細は、公式サイト、ツイッターをご覧ください。

金子勝さん

北村堅二郎さん

原発ゼロへのカウントダウン
in かわさき　集会＆デモ
2023 年 3 月 12 日（日）中原平和公園
１１：００　開場、模擬店・展示ブース
１２：００　文化行事
１３：００　メイン集会、デモ行進

私も会員です　No.１１

小出　幸代さん（高齢者施設勤務）

農地を汚染された人々と父が重なって

私は父親っ子でした。戦後昭和 21 年生まれの穏やかで誰にでも優しい父でした。「戦後みんなの食べるものがなくて、それを作ってあげたくて農業の勉強をたくさんして農協に入ったんだよ。だから食べ物は大事にね」と話していました。

少し都心から離れたところへ行くたびに父と対話しているようで、農地をみると安心します。けれどその農地を汚染されてしまった人々、とりわけ収穫した農作物を捨てなければならないという出来事には言葉もでません。原子力発電を享受してきた全員、痛み分けだからと食べたらいいのではないかとも思うのは、甘いと分かっているのですが。もっと強く撥ね付けなければ世の中が変わらないから被災地産のものは全て否定しなさいという意見も聞きます。

ここ数年ですが子どもに親の手が伴わなくなったと感じ、同じポリシーをもった新しい友だちが欲しくて「生活クラブ生協」の委員会に入りました。そこで福島原発の映画を見たり、再生可能エネルギー由来の「生活クラブでんき」に切り替えたりしました。

そして、昨年 7/17 の『気候戦士上映会』（かわさき発電所主催）を知り参加してみました。この時に、当会の「原発ダメという主張でなく、何ができるかに移行した」というあゆみに共感が持てました。また、上映後のワークショップで大学生さんと組ませていただき、学生さんにはできない資金面の援助が私にはできるなと思って、帰りの受付で入会をした次第です。

ステキなことたくさんしていますね。９月の『おひさまフェス』はそこに座っているだけで楽しかったですし、日取りは会いませんでしたが 12 月の『みかん狩り＆再エネ学習会』遠足、ふたつとも企画がさわやかです。関わっている方の雰囲気なのでしょうね。さわやかな輪が広がっていったらと思います(^.^)

【編集後記】

４月に福島学習企画を開催するにあたり、大学生に加わってもらっての企画チーム会議はとても新鮮で楽しいです。原発再稼働や運転を６０年に延長するなど、とんでもないです！気が狂っているとしか思えません。今年は次世代を担っていく若い世代の方に参加していただき、東京電力福島原発事故について一緒に考える機会にしたいと思っています。（加藤伸子）

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■
ホームページ
http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/
フェイスブック
https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden
メールアドレス　genpatuzero.hatuden@gmail.com
連絡先　TEL　044－211－0121　（川岸）

でん太通信は、２ヵ月に１回程度発行しています。